

# 話すこと・聞くこと

## 第2学年

大事なことを落とさずに聞き、友達の内容を深める質問をすること

### つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。



話し手: この道具は、お母さんが困っているときに使います。

質問内容が観点に基づいていない。

聞き手: お母さんは、他にどんなことで困っていますか？

話し手の内容も明確でないため、どこがいいのか具体的に言えない。

聞き手: そんな道具を考えられてすごいです。

### 実践の概要

単元名

つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう  
『あったらいいな、こんなもの』光村図書

目標 友達の話を読み、質問したり、感想を述べたりすることができる。

- 内容
- 観点に基づき、あったらいいなと思う道具を考える。
  - 観点に基づいて質問やアドバイスをする。
  - 増えた情報を聞く人がわかりやすくなるように整理する。

### 学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第6学年	立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう	話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。
第5学年	田鶴野小を良くするために提案書を書こう	話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。
第4学年	大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう	話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。
第3学年	幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう	互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。
第2学年	つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう	話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。
第1学年	きいて しらせよう	大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。

### 単元末の目指す姿

- 観点を明確にすることで、聞き手が道具の内容からずれない質問ができる。また、聞き取りシートを活用し、どの児童も話し手に質問できる。
- 話し手は、道具の説明の観点を明確にすることにより、聞き手がわかりやすい具体的な道具を考えることができる。

## つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

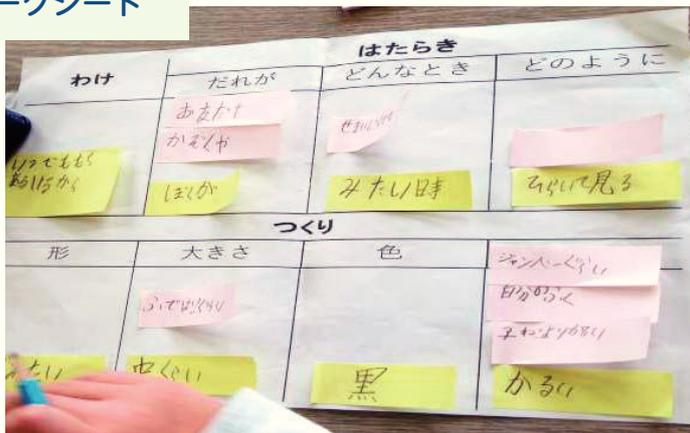
観点ごとに枠を設けたワークシートを用意し、読み取ったことを付箋で整理させる。

活動のねらい ▶ 聞き手は質問する観点を焦点化することができ、話し手は情報を付箋に残すことで、必要なものを取捨選択しやすくなる。

ここが  
ポイント

「あったらいいな」と思うものについて、どんなことが説明できたら、聞き手にわかりやすく伝わるかを3観点で示す。付箋に自分の考えた情報を書き、観点ごとに分けられたワークシートに貼る。自分で考えた情報と、人から質問されたりアドバイスをもらったりして増えた情報では付箋の色を変える。付箋にすることにより、情報の整理がしやすくなる。

### ワークシート



#### (期待される児童の姿)

話し手は付箋にメモを残すことで、どのような情報が付け加えられたのか、何が足りないのかが視覚的に理解できる。また、情報を取捨選択、分類する学習の際、付箋にすることで、どの児童も活動を容易に進めることができる。

## つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

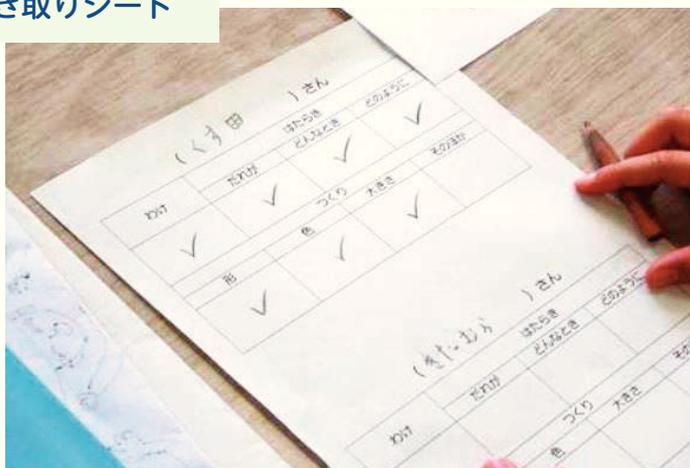
話し合いの際の聞き取りシートを用意する。

活動のねらい ▶ 聞き手が質問やアドバイスをするための観点を見つけやすくする。

ここが  
ポイント

聞き取りシートは観点ごとに分ける。話し手の内容を聞き、話し手が説明した観点にはチェックを付け、質問したいことやアドバイスをしたい観点には「？」マークなどを付けるようにする。→わかっていることと、わからないことを視覚的にわかるようにすることで、見通しをもって質問やアドバイスを行うことができる。

### 聞き取りシート



#### (期待される児童の姿)

聞き手は、聞き取りシートにより、話し手が説明できていない観点や、はっきりしない部分が明確にわかり、進んで質問することができる。2年生にとって、メモ（聞きながら書くこと）は難しいが、チェックを入れる活動は抵抗なく行うことができる。